

「秋の気配は・・・？」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

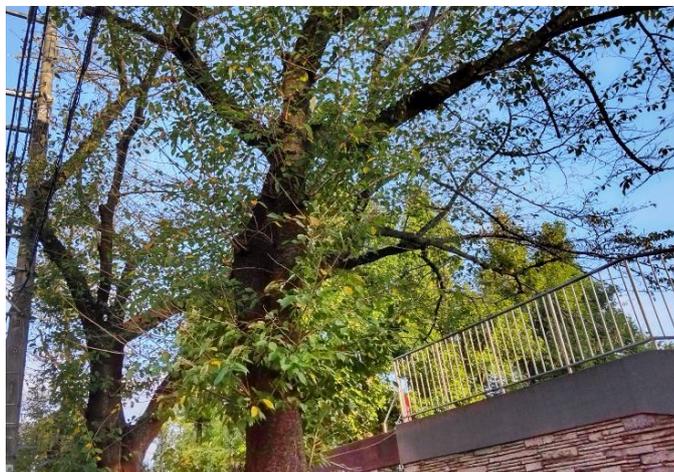
「〇の気配」という言い回しがある。「〇」の部分には「春夏秋冬」の季節が入る。各季節になる少し前に、会話や SNS の文中などで使われることが多い。

「夏の気配」というのは不思議とあまり聞いたことがない。だんだん暑くなってきて、「気配」というよりも「暑さが迫ってくる」という感覚が強いのだろう。強いて言えば「ヒグラシの声に、夏の気配を感じた」というのは正しい。ヒグラシは平地のセミでは、一番早く鳴きだすからだ。

「春の気配」もよく使う。「あぜ道の花に、春の気配を感じた」「少し暖かい風に、春の気配を感じた」といった具合だ。同じように「冬の気配」もよく使われる語だろう。



景色や自然物から「秋の気配」を感じることも多い。写真は私の通勤路の、教育の森脇の歩道（窪町小学校裏）である。ここは桜並木なので、「秋の気配」が早くやってくる。



サクラは、東京の落葉樹の中では、色づきも落葉も比較的早い。枝を見上げると、すでに1～2割の葉は色づき始めていた。こういうサクラの状態は、是非子どもたちにも見せておきたい。



路面にもすでに落ち葉が目立ち始めている。このサクラの落ち葉は、3年の学習に役立つ。教室で飼っている「ダンゴムシ」の良いエサになるのだ。私は毎朝、何枚かひろって、少し湿らせてエサに使っている。



お茶の水女子大学構内のキンモクセイ／C.Tanaka

中でも一番よく耳にするのが「秋の気配」である。私の場合、毎年一番最初に「秋の気配」を感じるのは「キンモクセイ」の香りである。大学構内のイチョウ並木のつき当たり、大学講堂前にあるキンモクセイは毎年秋の始めにたくさんの花をつける。小学校の校舎内まで芳香が漂ってきて、秋を感じる。ツルゲーネフ風になれば「アア、秋だ！」である。

もちろん、気温でも「秋の気配」を感じることはある。特に朝早く家を出た日には、半袖では寒く、上着をとりに戻ることもあるだろう。